



役員道外視察研修 大阪・山陰方面を視察しました！



11月5日～8日の4日間、令和6年度 役員道外視察研修を実施しましたのでご報告致します。

販売協議会（大阪中央卸売市場）

大阪中央卸売市場本場の大果大阪青果(株)会議室にて、関西市場5社との販売協議会を行い、当JAから食用馬鈴しょ及びゆり根の取扱状況を報告し、市場担当者からは現在の販売情勢の報告を受けました。

当JAからは、始めに馬鈴しょの状況を説明し、平年より2L比率が高く大玉傾向となっており、特にきたかむいが大玉傾向となっていること等について報告を行いました。続いて、ゆり根の近年の生産動向（戸数・面積減少）や2kgDBの数量実績報告に加え、作況についても大玉傾向であり、さび・あんこ症は少なく、今後の本格的な出荷に向け品質の徹底を図ることを説明しました。

市場からは、現在の販売状況の報告に加えて、各産地の出荷が本格化してから10月上旬まで荷動きは鈍かったものの、現在は消費地の気温低下や秋商材への切り替わりもあり、荷動きは改善されている。生産コスト上昇を踏まえて、これから価格の底上げを図る。来年の大阪万博開催に伴い、需要拡大が期待されることなどの報告を受けました。

意見交換では、当JA役員から生産コスト上昇に伴う価格転嫁の要請や、消費地が求める馬鈴しょの品種動向などについて、活発な情報交換がなされました。

協議会終了後には、他産地（きたみらい・土幌）の馬鈴しょの品質確認を含め、当JAの馬鈴しょ及びゆり根の着荷品質状況を確認しながら、市場関係者との熱心なやり取りがなされました。

【担当：佐々木（康）】



販売協議会の様子

三菱マヒンドラ農機株式会社

三菱マヒンドラ農機株式会社は、島根県に本社を置く、農業機械全般を開発・設計する三菱重工業系列企業であり、令和6年現在の農業機械生産高は、クボタ、ヤンマー、井関農機に次いで国内第4位となっております。

この度の役員研修では、三菱マヒンドラ農機の会社概要や歴史、事業概況、環境への取り組み、近年の新技術の開発状況についての説明を受けた後、社屋に隣接している工場にて農業機械の生産現場を視察しました。役員からは、国内向けと海外向け製品の安全基準や意匠の違い、新製品の開発状況等についての質問がなされ、充実した研修となりました。

【担当：佐々木（康）】



研修の様子



ラピタ本店 (JAしまね)

JAしまねは、平成27年3月に島根県内11JAが統合し、奈良県、沖縄県、香川県に次いで全国4例目の1県1JAとして誕生しました。

ラピタ本店は、JAしまね出雲地区本部の生活資材部門の愛称で、出雲市内で8店舗を運営しており、他JAで言う『Aコープ』に相当します。

この度の視察では、JAしまねの担当者よりJAしまねラピタ農産物直売会の説明を受けた後、ラピタ本店内の直売所を視察しました。農産物直売会は平成14年に設立され、会員数は600名を超えており、令和5年の販売高は約4億5千万円となっています。役員からは、島根県産の農産物の状況や直売所の運営方法等に関する質問がなされるなど充実した研修となりました。

【担当：佐々木（康）】



直売所を視察

共選南瓜（あまほく）の選果が始まりました！

11月5日、JAようてい共選大根施設内の予冷庫にて共選南瓜（あまほく）の選果が始まりました。選果前には南瓜生産組合役員をはじめ、職員・関係者らが選果基準の目合わせを行いました。

本年産は高温環境と局所的な大雨による落花によって収量減少、小玉傾向となっており、受入重量は

約868.6t (R5年度約934.4t) と昨年対比約93%の収量となりました。

選果された南瓜は、冬至に向けて、ホクレンオリジナルブランド「りょうおもい」として道外を中心に販売される予定です。

【担当：松浦】



共選南瓜の目合わせの様子